

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

響奏阿姫マベチ

ひとりぼっちの行進曲



—それはまるで、
小さい頃に見たアニメの
ような光景だった

街や人々を
傷つける悪い人と
それに立ち向かう
女の子

そのアニメと違うのは
それが現実で起こって
いるということと—

その悪い人と
戦っていたのが
クラスメイトの
女の子だったこと

ここは私が食い止めるから…
貴女は早く逃げてっ!!



—ごめんなさい
気持ち嬉しいけれど
私、貴女とは
友達にはなれない

…私といると
きつと迷惑を
かけてしまうから…



あの時
拒まれた理由も
今なら判る

多分…
私なんか軽率に
首を突っ込んでいい
ことじゃない



それでも
私は—



吉川さん……？
あなた……
どうして……？

……誰かと思ったら
さつきコイツに
逃がしてもらっていた
ニンゲンか

せっかく拾われた
命をむざむざ散らしに
戻ってくるなんて
随分酔狂なヤツも
いたもんだ



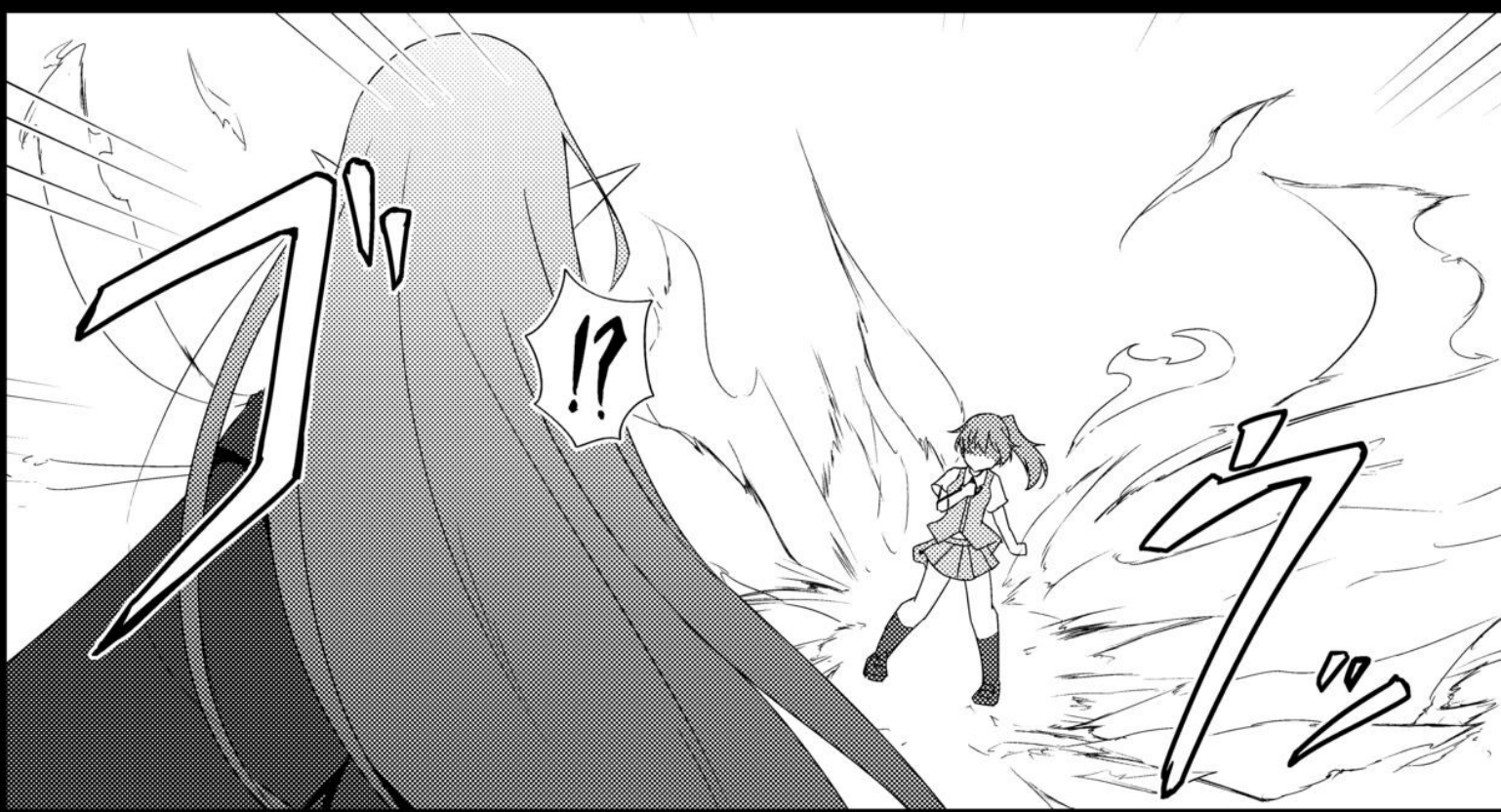
何してるの……！
はやく逃げて……

私
やつぱり
諦められない
一度は断られたけど
私は貴女とお友達に
なりた

——だから
貴女を見捨てて逃げる
ことなんてできないよ

私は……
友達として
日高さんを
……寧音ちゃんを
助けられる
私になりたい！

……いやだ



この力の流れ：
まさか……！！

…ありがとね

え…

不思議と力と勇気が
溢れてくる

根拠なんてないけれど
今なら彼女の力に
なれる気がする

今までこんなにも
危ない目にあっても
たった一人で皆を
守ってくれてたんだ

すごく辛かったよね
すごく怖かったよね

だったら
私にも担がせてよ
その重荷

私もあんまり
強くないけどさ

『友達』と
はんぶんこなら
多分頑張れると
思うから

正義の味方になって
なりたいわけじゃない

全ての人を
救うことなんて
できない
かもしれない

—でも



—だから
もう一回言わせて

困ってる『友達』の
手を握ってあげる
ことくらいなら

—なって
もらえないかな

私と…
『お友達』に！

出来るって
思ってたんだ

ある日。町に突如
異界に通じるゲートが
出現し、一人の侵略者が
現れた

侵略者の名前は
『ミュート』

この世界の支配を掲げ
人智を超えた力を振るい
人々を襲うその侵略者は
『魔人』と呼ばれ恐れられた

しかし時を同じくして
その脅威に立ち向かう
二人の少女が現れた

誰が
呼び始めたかは
定かでない

閃光のように現れた
彼女達は人々にとっての
一筋の希望^{ひかり}として
いつしかこう呼ばれていた

——『閃姫』と

学校にいる生徒達が
避難しているようです

被害が及ぶ前に
一気に畳みかけましょう
マーチ！

閃姫アリア
ねおん
(日高寧音)

閃姫マーチ
かなえ
(吉川奏衣)

……っ！

どうしたんだい？
さつさと攻撃してくれば
いいものを

まあ
攻めてこないんなら
ボクとしても都合さ

目的はキミ達と
戦うことじゃない

マーチ…？





マーチツ!!

やっぱりキミは
そう動くよね
マーチ



キミのお人好しに
賭けてみたけど
正解だったみたいだ

予想通りに
動いてくれて
助かるよ



さて
目的も済んだことだし
ボクはこれで失礼するよ

せいぜい相方の
様子に気を配るんだね



待ちなさい
ミュート!

ミュートツ!!



目的って…

いったい
何を考えてるの…?

身体は何ともないんですか？

うん
痛みとかもないし
もう大丈夫だよ

私のことより
さっきの子は

貴女が
庇った子なら
無事ですょ

ただあの時の
ショックで
まだ気を失って
いるようですが…

そっか
よかったあ…

でも私のせいで
迷惑かけちゃった
…ごめんね

そのことなら
気にしないで
ください

貴女もあの子も
無事だった訳ですし
それで十分です

私ね

出来ることなら
自分が出会う人たち
みんなと仲良しに
なりたいてって
思ってるんだ

さっきの子とも
…できれば
あのミュートとも

本当は
戦いたく
なんてない

何とかお互いに
分かりあえる方法は
無いのかなって
最近考えちゃうんだ

あの時も
そんな考えが
急によぎって…

戦いの最中なのに
動けなくなっちゃった

奏衣…

そういう
考えは

やっぱり
甘いのかな



目が覚めた時
お股がむずむずするって
思ってたなら

まさかこんなのが
生えてたなんてー

ーねえ

寧音ちゃんと
話してる最中も
胸のドキドキが
止まらなくて…
ただこんな
得体のしれないモノ
触るわけには…

ビクッ

イクッ…

ドクッ
おにんこ

なんか
息荒いみたいだけど
大丈夫？

アタシもさつき
目が覚めたばっかだけど
あんまし辛いなら
センセ呼んでようかー











うっ…
で
射精るッ!

ス
ピ
ン

あ…

あの日から
私の日常は変わった

抑えられない衝動に駆られ
男の子も女の子も
生徒も先生も関係なく
交わってしまう日々

そしてその相手も
初めこそ拒絶するものの
次第にこうして積極的に
私と行為をするようになった



最初に比べたら
自分の理性が

飛んでしまうような

ことは少なくなり

落ち着いて物事を

考えられるようになった

今の状況が

おかしいという認識も

ちゃんと出来ている

…と思う

だけど…

ちよつと待って
今挿入られたら私…

はうっ!!

ああ〜♪
やっぱこのちんぽ
最ッ高♥

もうカレシなんて
どうでも良くなって
きちゃうわ♥

あ♥
奏衣のちんぽ
空いてんじゃん

いっただきまーす♥

はぁ…

はぁ…

あれ
もうへばっちゃった？

まだ全然満足して
ないんだけどなあ

これじゃ
全然足りないよ

もっと繋がりたい…
もっと…
たくさんの人と…

あは♥
新しい人が
来てくれたんだあ♥

あなたは私のことを
満足させてくれー

お互い持ちっ
持たれっなのが
友達でしょ？

私はちゃんと
キモチよくして
あげてるんだから
私のことも満たしてよ

随分と
愉しんでる
じゃないか

ボクも
交せてくれよ





ミュート…!!

あつはは♪
ひつどい光景!

ニンゲンを襲うボクを
非難してたクセに
キミもなかなかえげつない
ことしてるじゃないか

違っ…
これは…!

ハッ



何が違うんだい?
ボクは全部見ていたん
だけどなあ?

前に戦った
あの時から
ずうっとね

前につて…
それじゃ原因は
やっぱり貴女が…!

…そろそろ
タネ明かし
してあげようか

前に戦った時に
キミが受けた一撃

あの時に少しばかり
キミの力を
弄らせてもらった



私の…力?

そもそもキミ達は
自分が使う力の正体
について考えたことは
あるかい?

まさか
「悪いヤツに対抗できる
正義の力に突然目醒めた!」
…なんておめでたいことを
考えているわけじゃ
ないだろう?

…っていつでも
それについては
ボクも想定外でさ

確証を得たのは
つい最近

そのヒントは
…キミがくれた

キミがボクの
目の前で初めて
変身してみせた時

周囲に霧散していた
ボクの力の残滓が
キミに集まって
いくのを感じた

…思ってもみなかったよ
まさか一番消したいと
思っていた邪魔者が
ボク自身から生まれた
ものだったなんて

…ちよつと
待ってよ

それじゃ
私たちの力は—

—そう

キミが思い描いた
『願い』に共鳴し
ニンゲンが扱えるように
最適化された魔人の力

それこそが
キミ達が『閃姫』と呼ぶ
力の正体だ

そんな…

元々この力の源は
この世界を支配したい
というボク自身の
『欲望』—

その欲望を
理性で抑えたがる
ニンゲン如きに
扱えるものじゃない
はずなのだけど…

誰とでも友達に
なりたいたい
思うような
お優しいキミが

どうして
使えたんだろうね？

なんでって…

そんなこと
聞かれても…

…ふうん
まだ認めたがら
ないんだ

体面を保つために
自分すらも
騙そうとする

理性ってのは
難義な存在だね

不

そんなんじや
この力を使いこなす
なんてできないよ

だからボクはあの日
攻撃に見せかけて
キミに「種」を植えたんだ

不

ひう!!

ビク

理性で綺麗に整えた
『願い』なんかじゃなく
その奥にある感情—

ボクと同じく
『欲望』を原動力として
力を行使できるようにね

25

いい加減
素直になりなよ

このカラダも
キミが及んだ行為も
周囲の者の変貌も

全てキミ自身が
望んでること
なんだよ

キミが本当に
望むのは『友達』
なんかじゃなくて—

やめてッ!!

違う…
私あんなこと
望んでない!

私のせいで
みんなおかしく
なっちゃって…

でも自分では
それを止めることが
出来なくて…
すごく怖かった

私：思ってたんだ
今は敵同士だけど
いつか貴女とも
分かりあいたいって

…でもやっぱり
寧音ちゃんの
言うとおりだった

閃姫として
皆を守るためには
許しちゃいけないんだ

貴女の行いも…
それ以上に
私自身の甘さも!

これ以上
大切な人たちが
傷つけてしまわない
ように

これは全部
私の弱さが招いた
結果なんだ

だから
私が決着をつけないと

私は絶対に
負けるわけには

変身

変身



ケ
セ
ミ



なに…
コレ…?

変身した途端
今までとは比にならない
強烈な快感が…!?

でも
満たされない

それどころか
どんどん体が疼く…

心が…渴いていく…ツ



キミが助かる
方法は一つ

自分の『欲望』に
素直になり
受け入れること

もうキミはその力を
制御することはできない

それどころか
湧き上がる欲望に心を
喰いつくされるだろうね

言ったじゃないか
今のキミは『欲望』が
力の源になってるって

力を使えばそれだけ
心の侵食は加速する

だから—





ふっ…う♥

ニンゲンの交尾
ってのもなかなか
イイもんだね…♪

この相手を蹂躪する
感じ…病みつきに
なっちゃいそうだよ

キミも散々この快楽を
味わってきたんだろ？

さっさと
受け入れてしまえば
楽になれるのに
なに意固地に
なってるのさ

もうキミの心は
とっくに限界を超えている
早く正直にならないと
本当に死んじゃうよ？

い…やだッ…

ここで折れたら
私は守るべき
みんなを…

…寧音ちゃんを
裏切ることになる

それだけは
絶対にダメ…！

そうなったら
私…

はぁ…

はぁ…

わたしっ…



キミにはもう

こんなにも
たくさん
『トモダチ』が
いるんだから

彼らは身も心も
キミの『欲望』の鎖で
繋がれた傀儡
チカラ

何があろうとキミを
愛し必要としてくれる
最高の『お友達』だ

—もつとも
ボクからしてみれば
それはもう『友達』
なんかじゃなくて…

—そっか。

この力の源は
この世界を支配
したいという
ボク自身の『欲望』

誰とでも『友達』に
なりたいと思うような
お優しいキミが
どうして
使えたんだろうね？

私は—

やつと解つた！
自分がどうして
他人に固執するのか

—『支配』っていうんだけどね

…はは

「私は、たくさんの人と
手を繋ぎたい」「だけ」だった。

以前の私には何もなかったから。
繋いだ手の温もりで
自分の存在を確かめたかった。

だから…
私は望んでしまった

「絶対に断ち切れない絆」を

そして
『欲望』は与えてくれた

誰とでも
『繋がれる』カラダを

一度『繋がった』
相手を繋ぎとめる
チカラを

閃姫なんかになった時点で
私には誰かの為^{ため}に戦う
資格なんてなかったんだ

だったら
もう諦めちゃおう

もう誰かと
仲良くなるために
自分に嘘を
吐かなくていい

もう…いいや

私は貴女も…
自分の欲望も
受け入れる

今の私には

すべての人と
『トモダチ』になれる
チカラがあるんだから—

だから…

私と一緒に

きもちよ
仲良くなって…!

もう何も考えなくても
いいように…
私を生まれ変わらせて!



キミが素直に
なってくれて
嬉しいよ

一緒に仲良く
ニンゲン共を
支配しようじゃない…

カツ！



すごい…
すごいッ！

ひと突きごとに
不安や恐怖や
溶けていく……

今までの苦しみが
嘘みたい
に
心が軽くなつていくっ…♡

これが欲望を
解放する悦び…♡



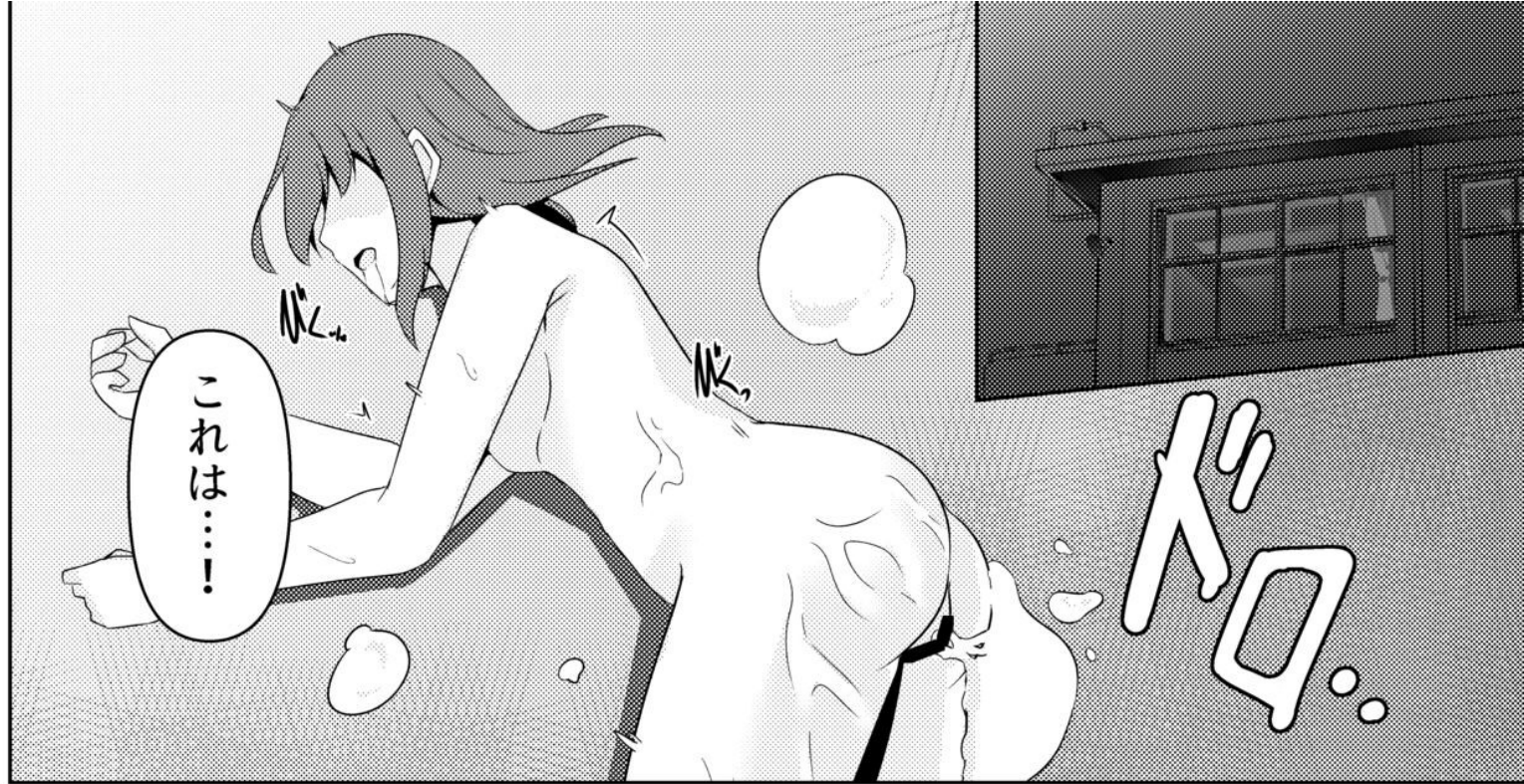
さあ…
出すよッ！

魔人の因子を受け入れて
生まれ変わるんだッ！

うんっ！
来てえ♡

私にいっぱい
トモダチの『精子』
を
ちょうだいっ！
あかし





あはは♪
驚いてる驚いてる

一度やって
みたかったんだよね
お友達への
サプライズってヤツ♡

あ
でももう友達とは言えないか
今の私は寧音ちゃんにとって
敵なんだもんね

奏衣…なの…？
その姿はいいたいー

でもね
私はまだ寧音ちゃんのこと
が大好きなんだ

だから
私はまだ貴女とは
『お友達』でいたい

ここにいる私の
トモダチ
『お供達』と同じには
したくない

閃姫である以上
寧音ちゃんにも
私と同じ『欲望』は
あるはず

それを解放すれば
下等なニンゲンの
柵から貴女を
解き放ってあげられる





だからさ
私に寧音ちゃんの
全部を曝け出してよ

醜いところも
汚いところも
何もかも
受け入れてあげる

そうして
今の私と『対等』おなじになった
その時にはまた――

―なっ…て…あ…げる

貴女と…
『お友達』に♪

あとがき

初めまして。緒寄と申します。

この度は当サークルの同人誌をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。

普段は悪堕ちモノのイラストをメインで描いていますが、
今回は前々から描きたいと思っていた漫画に挑戦してみました。

いやあ…本当に難しい。

自分なりに頑張って作ったつもりですが、至らない部分が多々あると思います。
素晴らしい漫画作品を描かれるクリエイターの方々にはただただ敬服するばかりです。
私はまだまだ技術も経験も不足しているため、今後とも頑張っていきたいと思います。

読み手としては悪堕ち作品であれば大抵なんでも美味しく頂くのですが、
自分がそれなりのボリュームの作品を作るときには
「キャラクターの背景」、「その背景を利用した堕とし方」、「堕ち前と堕ち後の対比」
を特に意識しています。

一見周囲の人間を引っ張っているように見えて、その実周囲の人間に依存している…。

今回はそんなイメージと「友達」というワードを

堕ち前後の対比にする方向で物語を描いてみました。

導入と最後の対比が個人的にとっても気に入ってはいるのですが、
会話シーンやテキストが成人向けにしてはやたらと多くなってしまったのは反省…。
エロ漫画らしくえっちシーンとストーリーの進行を両立できるようになりたいですね。

そして今回の主人公「奏衣」が堕ちましたが、もう一人のヒロイン「寧音」が堕ちていませんね。

彼女もきちんと段取りを踏んで堕ちて頂きたいので、

シリーズとしてもう一本お話を考えています。

今回堕ちた後の奏衣の活躍があまり描けなかったので、

もう少し二人の絡みやえっちシーンを強化する方向にしたいと考えています。

いつ出せるかはまだ未定ですが、なるべく早めにお見せできればと考えています。

最後に。

今回の本ですが、本来なら前回の夏コミで出す予定でした。

しかし、慣れない作品媒体なうえに色々悩んでしまった部分があり、

思ったような作品作りが出来ず結局落としてしまいました。

それ以降、創作に対してかなり臆病になっていたのですが、

創作活動を通じて知り合った方々からご意見や激励を頂き、

無事作品を完成させることが出来ました。

その創作仲間や応援してくださった皆様、本をお手に取ってくださった皆様に

この場を借りてお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

-奥付-

誌 名：響奏閃姫マーチ
～ひとりぼっちの行進曲～
発 行：天パ屋さん
発行者：緒寄
発行日：2022/12/31
印 刷：日光企画様

連絡先：ozakix1416@gmail.com
Twitter：@ozakix_1416
pixiv：ID=16789563

- ・無断での転載・複製・転売・web上へのアップロードを固く禁止致します。
- ・未成年者の閲覧を固く禁止致します。





Presented by

天パ屋さん